

製品名: NMDA ϵ 2 (リン酸化 Tyr1474) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05116**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	165kDa

抗原情報

遺伝子名	GRIN2B GRIN2B; NMDAR2B; Glutamate [NMDA] receptor subunit epsilon-2; N-methyl D-aspartate
別名	receptor subtype 2B; NMDAR2B; NR2B; N-methyl-D-aspartate receptor subunit 3; NR3; hNR3
遺伝子 ID	2904.0
SwissProt ID	Q13224
免疫原	抗血清は、ヒト NMDAR2B の Tyr1474 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1435-1484

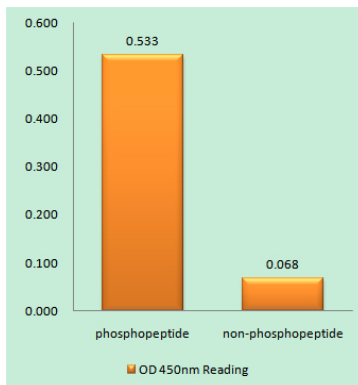
背景

N-メチル-D-アスパラギン酸 (NMDA) 受容体は、イオンチャンネル型グルタミン酸受容体の一種です。NMDA 受容体チャンネルは、特定の記憶や学習の基盤となると考えられているシナプス伝達効率の活動依存的な上昇である長期増強に関与することが示されています。NMDA 受容体チャンネルは、NR1 (GRIN1)、NR2 (GRIN2A、GRIN2B、GRIN2C、または GRIN2D)、および NR3 (GRIN3A または GRIN3B) の3つの異なるサブユニットからなるヘテロ多量体です。NR2 サブユニットはグルタミン酸のアゴニスト結合部位として機能します。この受容体は、哺乳類の脳において主要な興奮性神経伝達物質受容体です。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: 高いカルシウム透過性とマグネシウムに対する電圧依存的な感受性を有するグルタミン酸依存性イオンチャンネルの NMDA 受容体サブタイプ。グリシンを介する。類似性: グルタミン酸依存性イオンチャンネル (TC 1.A.10) ファミリーに属する。サブユニット: ゼータサブユニット (GRIN1)、イプシロンサブユニット (GRIN2A、GRIN2B、GRIN2C、または GRIN2D)、および第3サブユニット (GRIN3A または GRIN3B) からなるヘテロ多量体チャンネルを形成する。GRIN1 および GRIN3B との複合体として存在する。GRIN1、GRIN3A、および PPP2CB との複合体として存在する。INADL および DLG4 の PDZ ドメインと相互作用する。HIP1 と相互作用する (類似性による)。MAGI3 と相互作用する。組織特異性: 主に前頭頭頂側頭皮質および海馬錐体細胞に存在し、基底核では発現が低い。

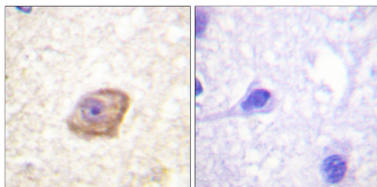
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用、長期増強、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、ハンチントン病、全身性エリテマトーデス、

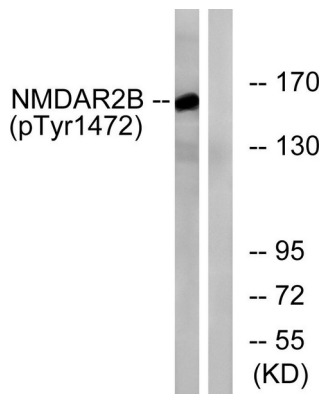
画像データ



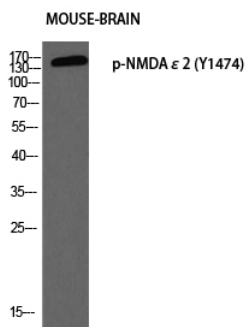
NMDAR2B (リン酸化 Tyr1474) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



NMDAR2B (リン酸化 Tyr1474) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15 '処理した Jurkat 細胞ライセートの NMDAR2B (リン酸化 Tyr1474) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



p-NMDAε2 (Y1474) 抗体を用いたマウス脳のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。